

平成4年度 第3回、第4回幹事会報告

■ 第3回(7月30日、大阪労災病院)

I 各事業部報告と協議事項

事務局(総務・会計)(1)日本医学図書館協会(JMLA)からの案内;①平成4年度新役員の挨拶状 ②米国国立医学図書館(NLM)所蔵文献の複写サービスの新方式 ③第7回国際医学図書館会議(2)名古屋研修会実行委員会会議(6/28 名古屋市内):大橋真紀子、大平美里、林志穂の各氏出席、秋の第4回名古屋研修会の企画(前号に案内掲載)。(3)会計:中間報告の中で会費の入金状況は3分の2程度、支出は通信費と交通費が主な項目として報告。(4)総務:今年度会員名簿作成(本号「会員名簿」参照)

研修部 全国図書室研究会の準備経過の報告。このうち講師交渉には紆余曲折があったこと、開催協力の内容に日本病院会との間で従来とは解釈の違いがあったこと等が報告された。この他、当研究会当日の役割分担を協議し、受付、接待、総合司会、会場設営、スライド、録音、カメラの各受持を幹事で分担して担当することになった。

会誌編集部 統合した『病院図書室』12巻1-2号が好評裡に迎えられたこととその会計報告。3号の編集経過および4号と13巻1号の記事企画について報告。なお、全国図書室研究会の報告記事の扱いについては日本病院会との交渉経過が報告され、必要があれば事務局で対応することにした。また、会員名簿の掲載経費は事務予算から計上。

統計調査部 今年度の年次統計調査では図書室の組織上の所属記入欄と配備機器の記入欄について改訂したい旨の提案があり、簡略化して回答の揺れを少なくするよう図ることにした。

総合目録編集委員会 入力データのチェック状況に偏りがあるため、手分けして早急に残りを処理し、9月末には入力作業に入る予定との報告。

II その他

第4回幹事会は10月8日(木)、京都南病院で開くことに予定。

■ 第4回(10月8日、京都南病院)

I 各事業部報告と協議事項

事務局(総務・会計) 全国図書室研究会の事後経過説明の他、特になし。

研修部 全国図書室研究会について総括。内容的には充実していたと評価でき、参加者の声やアンケート結果にもそれが窺えた。ただし、他団体との共同事業に取り組む場合には今後、事前の打合せをより緊密に行う必要があることを確認(報告記事参照)。この他、第4回名古屋研修会(10月)の準備状況、大阪大学生命科学図書館見学会(11月)と第66回研修会(12月)の企画案について報告。**会誌編集部** 『病院図書室』12巻3号の発行経過と会計報告。4号の編集経過、13巻1号の記事企画のそれぞれについて報告。なお会誌の今後のあり方については、今年度の編集企画や記事内容を見た上で、協議会の活動や予算を勘案しながら事務局でも吟味することにした。

統計調査部 年次統計の回収率は約6割。未提出会員へは10月末を締切として再依頼状を発送して参加を促し、11月から集計作業に入る予定。

総合目録編集委員会 データ検収後は共同作業の形をとって作業の効率を高めることが提案され、委員会でも検討していくことになった。

II 決定事項

(1) 協議会の名称については1989年以来、その変更を望む声が会員の中から出ていた。そこで、事務局からこれまでの経過を簡単に説明し、基本的な方針や今後の対応について検討した。その結果会の名称は当会の趣旨や活動に賛同する機関が参加する上で弊害とならないように配慮し、また現在の会員構成を反映していく方向で再検討していくこととした。しかし、名称変更は重要な問題であり会内外の状況を的確に把握することも必要であるため、まず第一段階として会員へのアンケートを行い会の名称についての考えを問うこととした。

(2) 第5回幹事会は12月3日(木)、大阪回生病院で開くことを予定した。